

初級・中級日本語コースにおける多読授業の実践報告

松井咲子・三上京子・金山泰子

1. はじめに

英語教育においては多読が定着し、学習者の読解力の向上、語彙力の強化、読むことに対するモチベーションの向上など様々な効果が報告されている (Day 他, 1998)。一方、日本語教育の読解授業では精読や速読が主流となっており、多読はこれまであまり取り入れられていないことから、多読の実践報告や先行研究も限られている。本稿では、2011 年度冬学期 (2011 年 12 月～2012 年 3 月) および 2012 年度春学期 (2012 年 4 月～6 月) に国際基督教大学日本語教育課程 (以下 JLP) の初級と中級コースにおいて実践した多読授業と授業後に実施したアンケート結果について報告する。また、今後、大学の留学生対象の日本語授業において、どのように多読を取り入れることができるか、そこにどのような課題があるか、などについても報告する。

2. 先行研究

英語教育において初めて Extensive Reading、つまり多読ということばを用いたと言われる Palmer (1964, 1968) は、多読を「次の本から次の本へと速く読んでいくこと」と定義しているが、栗野他 (2008) は「学習者が自分の能力に応じてやさしい読み物から難しいものへ段階的に辞書を使わずに、楽しみながらたくさん読んで語学力をつけていく学習方法」という、より詳しい定義づけを試みた。Day & Bamford (1998) は、多読の実践方法を説明する中で、多読を成功させるための 10 の特徴を挙げ、福本 (2004:42-43) はそれを以下のようにまとめている。

1. 教室内・外でできるだけたくさん読む。
2. さまざまなトピックについて書かれているものを用意する。
3. 学習者は自分の読みたいものを選び、興味がなくなれば読むのを止めてもよい。
4. リーディングの目的は、楽しんだり、情報を得たり、大意を把握することであり、その目的は読み物と学習者の興味による。
5. リーディング自体が目的である。それゆえ理解をチェックするための問題は行わなくてもよい。
6. 読み物に出てくる語彙や文法は学習者の言語能力の範囲内である。
7. リーディングは個人的なものであり、静かに自分のペースで自分が読みたいときに、好きな場所で行われる。
8. 自分がやさしいと思うものを読むため、通常のリーディングよりは読むスピードが速い。
9. 教師は学習者にリーディングの目的や方法を説明し、学習者の行動を把握したり導いたりする。
10. 教師は学習者の模範役である。リーディングとは何なのか、またどのような

利点があるのかを示す。

英語教育における多読実践の事例からは、多くの多読のプラス効果が報告されている。Brett 他（2003）は、多読には動機付けを高め、語彙、文法の知識を広げ、且つ深め、読みのスピードを上げる利点があるとしているが、実際に、Elley and Mangubhai（1981）によるフィジーでの事例では、多読により読みの力だけでなく聴解力も向上することが観察されている。多読の効果は他の技能にも波及し、学習者は、書かれた英語の構造を理解して、複雑なものでも正しく暗唱できるようになったという。また、Grabe（2009）は、多読による学習者の概念的な知識の拡大に着目した。継続的に多読を実践した学習者は、ほとんど読まなかった学習者と比べて概念的な知識を獲得したと報告している。

一方、日本語教育での事例はまだ数が限られるが、多読による文字・語彙力、読解力、文法力の伸びを多読グループと精読グループで比較し、多読の効果を観察した福本（2004）、多読による付随的語彙学習の可能性を示唆した三上・原田（2011）、多読授業が学習者の情意面に及ぼす影響を考察し、学習者が多読によって感じる、技術の向上、満足感・達成感、楽しさが動機づけへのプラス作用となっていることを検証した二宮・川上（2012）の調査報告がある。また、池田（2008）は実践報告の中で、学習者が読めるようになることを目標とする授業から、読むようになることを目標とする授業への発想の転換を提言している。

このように英語教育および日本語教育においてプラスの効果が報告されていることを受け、担当クラスでの多読の実践を行うに至った。

3. コースの概要

3-1. 各コースの1学期の総時間数、レベル

今回多読授業を実践したコースは、日本語3、4、6（以下J3、J4、J6）及び集中日本語3（以下I3）である。J3、J4、J6では毎日70分2コマの授業が10週間（1学期総授業時間約116時間）、I3では毎日70分4コマの授業が毎日10週間（1学期総授業時間約232時間）行われる。各コースのレベルは、J3が初級3段階中最後のレベルであり、続くJ4～6がそれぞれ中級の前期・中期・後期のレベルに相当する。I3ではJ5とJ6と同様の内容をカバーする。

3-2. 各コースの「読む」に関する目標

シラバスに掲げられているコースの目的と「読む」に関する目標を表1に示す。

表 1 各コースの目的及び「読む」に関する目標

コース	コースの目的及び「読む」に関する目標	
J 3	目的	初級文法(basic grammar)、ことば、漢字 400 字を勉強し、日本での日常生活(everyday life) で正確に (accurately) 聞いたり、話したり、読んだり、書いたりできるようになる。
	目標	By the end of this course you will be able to read about up to 400 Kanji. Read on even if there are unfamiliar words. (注: J 3 のシラバスは 1 部英語表記となっている)
J 4	目的	中級初めの文法・表現を身に付けて (acquire)、社会や文化の身近な (familiar) トピックについて聞いたり、読んだり、話したり、書いたりできるようになる。
	目標	・身近なトピックについて読んで、構成 (structure) を理解し、だいたいの内容がわかるようになる。 ・読んだり聞いたりしたものについて、話したり書いたりできるようになる。
J 6 I 3	目的	上級の前の段階として、中級後半の文法・表現を身につけ、抽象的、やや専門的な内容について聞いたり、読んだり、話したり、書いたりできるようになる。
	目標	・漢字約 1150 字 とその漢字を使った言葉が読める。 ・抽象的、やや専門的な文章について、背景を理解し、段落構成を理解しながら読める。 ・聞いたり読んだりしたものについて時間内にまとめたり、意見や感想を言ったり書いたりできる。

4. 多読授業の実践

4-1. 実践の流れ

各コース共通で実践した方法は以下のとおりである。教員が教材を教室に持ち込み、授業時間の一部または全部を使って教室内で読ませた。学生には多読のルールとして以下の 4 点に注意するよう指導した。

1. やさしいレベルから読む。
2. 辞書を引かないで読む。
3. わからないところは飛ばして読む。
4. 難しかったり、おもしろくなかったりしたら、他の本を読む。

さらに毎授業終了時にどの本をどこまで読んだかを「多読シート」に記録させ、提出させた。最後まで読めなかった場合は続きを翌週に読むか、または図書館で借りて読むように指示した。また一部のコースでは最後にアンケートを実施した。アンケートの内容については後述する。コースによっては多読授業の一貫として発表活動を取り入れた。教員の役割としては、学生が多読作業を行っているあいだ、学生の読書状況を把握するために巡回したり、学生の質問に答えたり、本の内容やレベルについてアドバイスをしたりするなどした。

4-2. 多読授業を実施したコースの学生数・国籍内訳、及び多読に充てた授業時間数

各コースのシラバス・スケジュールによって多読授業の回数・時間数、実施状況が異

なるため、コース別に示す。

表 2 学生数・国籍内訳および多読授業時間数

コース	学生数（国籍内訳）	多読授業の回数 および時間数	備考
2011 冬 J 3	4 名（アメリカ 1 イギリス 1 フィンランド 1 ウガンダ 1）	1 コマ 70 分 中 15 ～ 20 分程度の授業 を 5 回行った。	70 分中 50 分程度速読を行 い、その後多読を実施した。
2011 冬 J 4	19 名（アメリカ 15 イギリス 1 タイ 1 台湾 1 韓国 1）	1 コマ 70 分 中 30 ～ 40 分程度の授業 を 9 回行った。	はじめの 30 分程で市販の問 題集を使用した速読授業を行 い、その後多読を実施した。
2012 春 J 3	2 名（オランダ 1 ベルギー 1）	1 コマ 70 分 中 15 ～ 20 分程度の授業 を 6 回行った。	70 分中 50 分程度速読を行 い、その後多読を実施した。
2012 春 J 4	4 名（アメリカ 1 イギリス 1 フィンランド 1 ウガンダ 1）	1 コマ 70 分 中 15 ～ 20 分程度の授業 を 4 回行った。	
2012 春 J 6	26 名（アメリカ 17 イギリ ス 3 カナダ 1 ドイツ 1 中 国 1 アイスランド 1 シンガ ポール 1 リトアニア 1）	1 コマ 70 分の授業 を 6 回行った。	前半の 3 回は多読教材を使 用、後半の 2 回は WEB 上の 日本語記事を読み、最後の 1 回は発表活動を行った。
2012 春 I 3	18 名（アメリカ 9 イギリス 2 台湾 2 オーストラリア 2 ミャンマー 1 シンガポール 1 韓国 1）	1 コマ 70 分中、20 ～ 30 分程度の授業 を合計 8 回行った。	70 分中 40 分～ 50 分程度速 読を行い、その後多読を実施 した。

4－3. 使用教材

各コースで使用した教材を以下に示す。各教材に収められている作品の詳細については巻末資料を参照されたい。

表 3 各コースの使用教材

コース	使用教材
2011 冬 J 3	『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』 レベル 1、2（NPO 法人 日本語多読研究会）
2011 冬 J 4	『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』 レベル 2、3、4（NPO 法人 日本語多読研究会） 『JGR さくら』（JGR プロジェクトグループ）
2012 春 J 3	『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』 レベル 1、2（NPO 法人 日本語多読研究会）
2012 春 J 4	『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』 レベル 2、3、4（NPO 法人 日本語多読研究会）
2012 春 J 6	『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』 レベル 3、4（NPO 法人 日本語多読研究会） 『JGR さくら』（JGR プロジェクトグループ） 『中上級の にほんご』（創作集団にほんご編）

2012 春 I 3	『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』 レベル 3、4 (NPO 法人 日本語多読研究会) 『JGR さくら』(JGR プロジェクトグループ) 『中上級のにほんご』(創作集団にほんご編)
---------------	--

4－4. 学生の読書記録

各コースでは、多読の授業終了時にどの本をどこまで読んだかを「多読シート」に記録させ、提出させた。多読シートは巻末資料 4 を参照されたい。表 4 は、学生の記録をもとに、学生が完読した作品を 1、途中まで読んだ作品を 0.5 として合計した数を示したものである。表中の数字は読んだ作品数、() 内の数字は読んだ作品の総数に対する割合である。この数字から、各コースにおいてどのレベルの教材が多く読まれていたかという傾向がある程度把握できるであろう。

例えば 2011 年冬学期の J 3 では、『よむよむ文庫』のレベル 1、2 が読まれ、そのうち 67.7% がレベル 1、32.3% がレベル 2 であった。2012 年春学期の J 3 ではレベル 1 が 72.7%、レベル 2 が 27.3% となっており、初級最後のコースではレベル 1 とレベル 2 がだいたい 7 対 3 の割合で読まれていることがうかがえる。

中級の導入期にあたる J 4 については、2011 冬学期と 2012 年春学期で読まれた教材のレベルに差異が見られた。2012 年春学期 J 4 の学生は 2011 年冬学期 J 3 と同じ学生であったが、非常に慎重なタイプの学生であり、あまり冒険をせずレベルを 1、2 から 3、4 へと 1 段階だけあげたようだ。一方 2011 年冬学期の J 4 は学生数が多くレベルも個性も多様であったためか、選んだ教材のレベルも多岐に渡った。が、もっとも多く読まれたのはレベル 3 で 50% 近くになっている。

2012 年春学期の I 3 はレベルとしては J 5 つまり中級半ばからのスタートであり、『よむよむ文庫』レベル 3、4 がほぼ同じ割合で 4 割程度になっている。中級最後の J 6 では中上級の読み物が 33.1% と最も多く読まれ、2 番目が『よむよむ文庫』のレベル 3 で 26.3%、3 番目がレベル 4 で 14.4% となっており、JGR の作品の各レベルも少数ではあるが、選ばれている。

5. 授業後アンケート

多読授業を実践した 6 コースのうち以下の 4 コースではコースごとにアンケートを作成し、授業後実施した。以下はアンケート結果の概要をコース別にまとめたものである。

5－1. 2011 年冬学期 J 3

在籍者 4 名のうち 3 名からアンケートの回答を得た。アンケートは多読の授業について感想、意見、要望などを自由記述式で記入してもらう形式とし、回答は英語でもよいとした。「役に立った」「効果的」「プレッシャーがなくリラックスできる」「既習語彙や既習文法ですらすら読めるのがよい」という感想のほか、「わからない語彙があるときは辞書がしたい」「もっと授業が多いとよい」「もっといろいろな読み物があるとよい」という要望があった。

表4 読書記録レベル別集計

コース	学生数 (注)	よむよむ文庫					J G R					中上級
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	A	B	C	D	E	F	
2011 冬 J 3	4	22 (67.7%)	10.5 (32.3%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2012 春 J 3	2	4 (72.7%)	1.5 (27.3%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2011 冬 J 4	17	0	30 (28%)	50.5 (47.2%)	15 (14%)	0	3.5 (3.3%)	2.5 (2.3%)	2 (1.9%)	3 (2%)	0.5 (0.5%)	0
2012 春 J 4	4	0	9 (60%)	6 (40%)	0	0	0	0	0	0	0	0
2012 春 I 3	17	0	0	10.5 (40.4%)	10 (38.5%)	0	3.5 (13.5%)	0	0	1 (3.8%)	0	1 (3.8%)
2012 春 J 6	26	0	0	15.5 (26.3%)	8.5 (14.4%)	2 (3.4%)	4.5 (7.8%)	1 (1.7%)	3 (5.1%)	3.5 (5.9%)	1.5 (2.5%)	19.5 (33.1%)

注：学生数は、読書記録を提出した学生の数を示す。

5-2. 2011 年冬学期 J 4

在籍者 19 名のうち、16 名からアンケートの回答を得た。アンケートは多読の授業について感想、意見、要望などを自由記述式で記入してもらう形式とし、回答は英語でもよいとした。

まず、多読の授業については、とても楽しかった (8 名)、面白かった (3 名)、多読の授業が好きだった (2 名)、一番好きなクラスだった (2 名)、一番良いクラスだった (1 名) と、全員の学生に好印象を持たれたことがわかった。また、「毎週楽しみにしていた」「次の学期も続けたい」という意見も同時に聞かれた。その理由として、「自分のペースで読めたので良かった」「日本語で書かれたものが読めてうれしかった」「ほかの授業とは違うものが読めて達成感があった」「漢字や言葉を調べないで全部の話を読めたのが良かった」などがあげられた。さらに、「新しい漢字を知ることができる」「漢字学習の助けとなる」「文法の使い方の例がわかる」「漢字や語彙の力が伸びる」「漢字や語彙の知識を作文に応用できる」「自身の読みのレベルを知ることができる」など、学習面を意識した意見も多く出された。

要望としては、「短編小説や日本の民話を読みたかった」「自分で選んだ本 (児童書など) を読んで、わからないところを教師に質問できると良かった」「難しいレベルの読み物には語彙リストがほしかった」「辞書を使いたかった」「もっと上のレベルの本があると良かった」「クラスの後、本を持ち帰って宿題で読むとよかった」などが出された。また、「多読授業は成績に関係しないので、たびたび休んでしまった」という学生も 1 名いた。J 4 では、多読授業により、読解力・語彙力が伸びることを期待し、それが結果的に期末試験の読解問題の成績に反映すると考え、多読授業そのものを評価の対象とはしていなかった。しかし、この学生の回答によって、多読授業において学生をどう評価するのか、あるいは評価しなくてもいいのか、という大きな課題が新たに投げかけられたのではないかと考える。

5-3. 2012 年春学期 I 3

多読授業最終回にアンケートを実施した。アンケートの内容は、おもしろいと思った読み物とつまらないと思った読み物のタイトルに加え、多読授業がおもしろかったか、またその理由を自由記述式で記入してもらった。在籍者 18 名のうち、14 名から回答を得た。

まず、おもしろかったかという問いに対しては、はい (12 名)、いいえ (1 名)、どちらでもない (1 名) という結果となり、多くの学生にとって多読授業が楽しめるものであったことが分かった。はいと答えた理由として挙げられていた内容は、以下のように大きく 4 つのカテゴリーに分けられる。

1 つ目は「自分のペースで好きな本が読めるのが嬉しい」というもので、精読などの他の読解授業との違いに学生が新鮮さを感じていることが見て取れる。2 つ目は、「読むことが好きだから日本語で読めて嬉しい」というもので、学生が母語によって体験している楽しさを外国語でも体験できた喜びと達成感を得られたのではと考えられる。3 つ目は、「ことばの良い使い方が分かって嬉しい」などである。既述のように、多読の効果

として、語学習得に関わる様々な技術が向上することが報告されている。今回の実践では、実践期間が短かったこともあり、学生の語彙力の伸びに関する客観的データは得られていないが、学生自身が多読による自分の日本語力の向上を実感できたことは大きな成果であったと言えるであろう。最後のカテゴリーは、「日本語を読みながらいろいろ考えられるのが楽しい」というものである。この回答から、学生達が多読を通して、学生の概念的知識が拡大し、批判的思考力が刺激されたことがわかる。このことは、ICU のリベラルアーツ教育が目指すところであり、今後学生たちの日本語学習の先にある学びへのつながりが期待される。

この様にアンケート結果から、学生達は多読授業に達成感、充実感を得、各方面での学びにつながっていたことが検証された。

5－4. 2012 年春学期 J 6

J 6 では多読授業を 6 回行ったが、前半 3 回のうち、2 回で市販の多読教材を読み、3 回目にグループで発表するという活動を取り入れた。後半は、各自がインターネットで日本語の読みテキストを探して読むというのを 2 回、最後の 3 回目にそのテキストについてプレゼンテーションをするという内容にした。

授業後のアンケートは、在籍者 26 名のうち 20 名から回答を得た。アンケートは、(1) 多読の授業全般についての感想、(2) 授業の時間について、(3) 多読授業の回数について、(4) 教材について、(5) グループ発表について、(6) インターネットによる多読について、という 6 つの設問ごとに複数の回答例を出し、いくつでも選んでもらうという形式にした。各設問の最後には自由回答の欄を設け、また (7) として、Reading、多読の授業について自由に意見を記入してもらったところも作った。以下に、各設問ごとの主な回答についてまとめる。

(1) 多読全般については、「好きな作品を選べるのがいい」(17 名)、「自分のペースで読めるのがいい」(14 名)、「クラス以外ではあまり読むことがないのでいい機会だった」(9 名) と、学生たちからおおむね高い評価が得られた。(2) 「授業の時間」については、半数の 10 名が 1 コマ 70 分全部を使うことに賛成だったが、70 分は長すぎるのでほかの活動も取り入れたほうが良いとした人も 6 名いた。(3) 多読学習の回数については、1 学期 3 回ぐらいがちょうどいい (6 名)、毎週続けたほうがいい (9 名) という二つの回答に大きく分かれた。(4) 教材は、14 名が「たくさんある中から選べて良かった」を選択したもの、「もっといろいろな種類の本を読みたかった」として「科学と数学の本」「新聞や雑誌の記事」「ふりがなが付いた本物の本」「自分が選んだ本」などが挙げられた。(5) グループ発表では、12 名が「ほかの人が読んだものについて聞くことができて良かった」と答えたが、「グループ発表ではなく、一人ずつみんなの前で発表したほうが良かった」という意見も 7 名から出された。(6) インターネットの記事を読んで発表したことについては、「インターネットで読む練習ができて良かった」(14 名)、「辞書ツールなどの便利なサイトを紹介してもらえたのが良かった」(10 名)、「日本語でプレゼンテーションをするのはいい練習になった」(8 名) と、肯定的な回答が多く寄せられた。最後に自由に回答してもらった (7) では、「自分で読むのはすごく楽しかった」「学期中、最も役

に立つクラスだった」「クラス外でも多読教材を読めるようになるといい」「色々な違うスタイルの教材があるともっと良かった」などの回答があった。

多読の授業では、通常の読解テキストを精読する授業では見られないほど、学生達が作品を読むことに没頭している姿が見られ、多読が「読むこと」に対する学生のモチベーションを高めることが実感された。また、中級の後半というレベルにあって、市販の多読教材ではやさしすぎたり、ジャンルも限られたりすることから、インターネットで日本語の記事を探して読むという活動を取り入れたわけであるが、このことは、今後学生たちが「読む」ことを自立的に行っていくためのきっかけとなり、良かったのではないかと考える。

6. まとめ及び今後の課題

2011 年度冬学期から取り組みを始めた多読授業は、現在までに 3 学期間継続して実施されているが、様々な点においてまだまだ試行錯誤の段階にあると言える。まず、コースによってカリキュラムや時間割、また担当講師が異なるため、多読にあてられる時間や多読授業に対する考え方、授業の方法なども様々となっていることがあげられる。そのため、日本語教育のプログラムとして、一貫性のある多読授業が実践できていないと言える。また、アンケートに寄せられた回答にもあったように、多読のための教材が、レベルや種類としても、また量的にも決して十分に用意されているとは言えないこともある。

しかし、4 つのコースで行ったアンケート結果を見る限り、多読授業は学生たちに非常に好意的に受け止められ、多読によって日本語力が向上したと感じていること、さらに、読むことに対する自信や達成感を得たり、モチベーションも向上させたりしたことがうかがえた。今後、語彙・文法の知識の獲得、読解力・聴解力の向上など、先行研究で言われているような多読の効果を測る方法を模索していきたいと考える。

また、授業内でどの程度の時間また回数を多読にあてられるのか、単に読むだけでなく、読んだ結果をどのように他の授業活動に結びつけていくことができるのか、学生が読んでいる間、教師は何をしているのか、学生たちの評価はどうするのか、など課題は多く残されていると言える。

来年度以降、カリキュラム改革に伴い授業時間数が減少する中、授業内で多読の時間をとることが難しくなることが想定される。その場合、学生たちに、多読を授業外で行わせるにはどうしたらいいのか、そのための動機付けやガイダンスを授業でどのように行っていけばいいのか、なども考えていかなければならない課題である。

参考文献

- 栗野真紀子 (2008) 「多読用レベル別読み物開発の経緯と今後」 日本語教育国際研究大会 予稿集, 258
- 栗野真紀子・川本かず子・松田緑 編著 (2012) 『日本語教師のための多読授業入門』 アスク出版
- 池田庸子 (2003) 「『学習者』から『読み手』へー日本語教育における Extensive Reading

- の試み」『茨城大学留学生センター紀要』第1号, 45-54
- 二宮理佳・川上麻里 (2012) 「多読授業が情意面に及ぼす影響—動機づけの保持・促進に焦点をあてて—」『一橋大学国際教育センター紀要』第3号, 53-65
- 福本亜希 (2004) 「日本語教育における多読の試み」『日本語・日本文化』第30号, 41-59
- 三上京子・原田照子 (2011) 「多読による付随的語彙学習の可能性を探る—日本語版グレイディッド・リーダーを用いた多読の実践と語彙テストの結果から—」『国際交流基金日本語教育紀要』7号, 7-23
- Brett Reynolds・原田照子・山形美保子・宮崎妙子 (2003) 「日本語版グレイディッド・リーダー開発に関する基礎的研究」『小出記念論文集』第11号, 23-38
- Day, R.R. & Bamford, J. (1998) *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press
- Elley, W.B. & Mangubhai, F. (1981) *The impact of a book flood in Fiji primary schools*. Wellington: New Zealand Council for Educational Research
- Grabe (2009). *Reading in a second language*. New York: Cambridge University Press
- Palmer, H.E. (1964) *The principles of language-study*. Oxford: Oxford University Press
- Palmer, H.E. (1968) *The scientific study and teaching of languages*. Oxford: Oxford University Press.

資料 1:『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』レベル 1～4 (NPO 法人 日本語多読研究会) 所収作品一覧

レベル 1 (初級前半 語彙数: 350 文字数/1 話 400～1500)	
Vol. 1	「女の子」「ハチの話」「ジョンさん日本へ」「浦島太郎」「笑い話」
Vol. 2	「タクシー」「寿司・すし・SUSHI」「笠地蔵」「ジョンさんバスの中で」「どうして猿の尾は短い?／どうしてクラゲは骨がない?」
Vol. 3	「バス」「着物」「どうしてエビの体は曲がった?／どうしてねこ年がない?」「舌切り雀」「ジョンさんの夏休み」
レベル 2 (初級後半 語彙数: 500 文字数/1 話 1500～2500)	
Vol. 1	「絵姿奥さん」「桃太郎」「クリスマスプレゼント～原題: <i>the Gift of the Magi</i> ～」「象のトンキー」「一休さん」
Vol. 2	「富士山」「わらしべ長者」「一寸法師」「トルストイ民話集: 王様とルバシカ／お父さんの物／細い糸」「最後の葉～ <i>The Last Leaf</i> ～」
Vol. 3	「日本のお風呂」「いろいろな国の昔話—中国— ホウイとチャンア」「ごん狐」「ソーピーの冬の家」「一休さん—その二—」
レベル 3 (初中級 語彙数: 800 文字数/1 話 2500～5000)	
Vol. 1	「小泉八雲の怖い話: むじな／幽霊滝」「注文の多い料理店」「かぐや姫」「この人だあれ?～お札の話～」「芥川龍之介短編集: 蜘蛛の糸／鼻」
Vol. 2	「かげのこいびと」「鶴の恩返し」「魔術」「日本の神話」「落語」
レベル 4 (中級 語彙数: 1300 文字数/1 話 5000～10000)	
Vol. 1	「雪女」「永井隆～原爆の地 長崎に生きて～」「杜子春」「走れメロス」「野菊の墓」
Vol. 2	「相撲」「小泉八雲の怖い話 2: 耳なし芳一／梅津忠兵衛の話」「東京を歩こう!」「世界のどこかで 日本のどこかで～本当にあった話～」「森鴎外短編集: 高瀬舟／最後の一句」

資料 2:『JGR さくら』(JGR プロジェクトグループ) 所収作品一覧

レベル A (390 語)	『蜘蛛の糸』(原作: 芥川龍之介) 再話=宮崎妙子
レベル B (540 語)	『横浜ミステリー』(原作: ヘレン・ブルック “Mystery in London”) 翻案=原田照子
レベル B (540 語)	『太郎の夏休み』(原作: 『今昔物語』「水の精」) 翻案=酒井眞智子
レベル C (740 語)	『大きな帽子の女』(原作: 『今昔物語』「近衛の舎人共稲荷詣でして重方女に与へる語」) 翻案=山形美保子
レベル D (1000 語)	『さようなら、ぼくの魔女』(原作: 久米梓『さらば、愛しの魔女』) 再話=宮崎妙子
レベル E (1400 語)	『坊っちゃん』(原作: 夏目漱石) 再話=原田照子
レベル E (1400 語)	『林の奥で』(原作: 芥川龍之介『藪の中』) 再話=酒井眞智子
レベル F (2100 語)	『銀田の事件簿 野山由美行方不明事件』(作: 原田照子)

資料3：『中上級のほんご』（創作集団にほんご編）所収作品一覧

古典編①	「一寸法師」（『御伽草子』より）「瓜姫物語」（『伽草子』より） 『宇治拾遺物語』より「雀報恩の事」 『宇治拾遺物語』より「利仁芋粥の事」
古典編②	『源氏物語』「桐壺・帚木・夕顔の巻」「若紫の巻」「末摘花の巻」 「末摘花・蓬生の巻」
古典編③	『竹取物語』（前編）『竹取物語』（後編）『落窪物語』（前編） 『落窪物語』（後編）
古典編④	『枕草子』より（清少納言）『方丈記』より（鴨長明） 『徒然草』より（吉田兼好）『更級日記』よりその1（菅原孝標女） 『更級日記』よりその2（菅原孝標女）
古典編⑤	『平家物語』より「敦盛最期」『大鏡』より1『大鏡』より2
古典編⑥	『東海道中膝栗毛』より『奥の細道』（抜粋前半） 『奥の細道』（抜粋後半）
古典編⑦	『古事記』より『古事記』より「天の岩屋」 『古事記』より「須佐之男命の大蛇退治」
文学編①	『鏡と鐘』（小泉八雲）『梅津忠兵衛』（小泉八雲） 『食人鬼』（小泉八雲）『振り袖』（小泉八雲）
文学編②	『河童』抜粋（1）（芥川龍之介）『河童』抜粋（2）（芥川龍之介） 『鼻』前半（芥川龍之介）『鼻』後半（芥川龍之介）
文学編③	『おじいさんのランプ』前編（新美南吉） 『おじいさんのランプ』後編（新美南吉） 『ごん狐』前編（新美南吉）『ごん狐』後編（新美南吉）
文学編④	『高瀬舟』前編（森鷗外）『高瀬舟』後編（森鷗外） 『よだかの星』前編（宮澤賢治）『よだかの星』後編（宮澤賢治）
文学編⑤	『坊っちゃん』（夏目漱石）『吾輩は猫である』より（夏目漱石）
文学編⑥	『こころ』その1（夏目漱石）『こころ』その2（夏目漱石） 『夢十夜』（夏目漱石）
文学編⑦	『小さき者へ』（有島武郎）『走れメロス』（太宰治） 『千曲川のスケッチ』より（島崎藤村）
エッセイ編①	「真夜中の初体験」（檜蓮花）「阪神淡路大震災」（原力也） 「現代『おせち』考 ―そしてわが家のおせちは―」（伊藤康子） 「住めば都」（浅野亜土子）
エッセイ編②	「むくちゃん」（篠原明美）「犬と暮らす」（坂田耳子） 「耳を澄まして」（杉田義博）「朗読から広がる世界」（辺見和可子）
エッセイ編③	「小池さんが行く」（篠原明美）「柿の里帰り」（辺見和可子） 「最高のクリスマスプレゼント」（奥山和子） 「江ノ電に乗って」（岡田美香）
エッセイ編④	「ラデロフ先生と梅」（西上鈴江）「私のインド体験」（辺見和可子） 「親知らず ―大人になる痛み―」（西上鈴江） 「ロボット看板娘」（大村琢治）
エッセイ編⑤	「冬の温もり」（全智榮）「ハムスターガーデン」（都さゆり） 「『かに座』疑惑」（西上鈴江）「日本への旅」（デビー・ボネール）
エッセイ編⑥	「ある帰国子女の物語」（高木圭）「おにぎり」（山中みどり） 「マイケルな日々」（辺見和可子）「新しいものの嫌い」（西上鈴江）
エッセイ編⑦	「さよなら、ミー」（山中みどり） 「難しいタイ語、もっと難しい日本語？」（宮本一生） 「古い好き」（山田麻美）

資料 4：多読記録シート

日本語 3 多読シート

名前 _____

	月日	読んだ本	レベル
例	12/9	「タクシー」	1
		「ジョンさんバスの中で」 12 ページまで	1
Reading1	12/16		
Reading2	1/6		
Reading3	1/20		
Reading4	1/27		
Reading5	2/10		
Reading6	2/1		

